出版の話――今井清一著『濱口雄幸伝』出版をめぐって

2014.3.17

はじめに

出版不況　→　話題性があれば出しやすい　→　話題性を作る　→　幻灯舎

現在、傑作と評価されている本が、大手出版社に軒並み拒否されて無名の小出版社から出る　→　出版社が成長、変貌する

→　零細出版社が、現実には、なかなか経験できることではない

→　幸運にもそのような作品に巡り会ったというのが以下の話である

→　新聞が興味を持ってくれた

このたびの発端は　『丸山真男回顧談』　丸山真男　松沢弘陽　植手通有

関係者

丸山幹治

丸山真男

丸山邦男

今井清一

宮本功

松崎美奈子

城山三郎　『男子の本懐』

相田岩夫（日販社長１９４９．９～１９６９．１１）

自由民権記念館

関田英里（初代館長１９９０．４～）

高知新聞

村瀬佐保

海路佳孝

刊行の今日的意味

原敬　勃興記　課題：衆議院を基礎とする政党が政局の主導権をとる

加藤高明　全盛期　課題：「憲政の常道」の樹立

濱口雄幸　爛熟・衰退期　課題：中流以上の利益を計り、大衆の信頼をかちうる

政党政治家としての濱口雄幸（１１章の丸山真男の直し）